



平成25年11月8日

各位

会社名 日特エンジニアリング株式会社
 代表者名 代表取締役社長 近藤 進茂
 (コード番号 6145)
 問い合わせ先
 役職・氏名 管理本部長 坂口 賢三
 電話 048-837-2011

業績予想の修正に関するお知らせ

平成25年8月2日に公表した平成26年3月期第2四半期累計期間業績予想及び平成25年5月10日に公表した平成26年3月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成26年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想(A)	8,400	870	940	630	34.87
今回修正(B)	8,070	590	660	440	24.35
増減額(B-A)	△330	△280	△280	△190	
増減率(%)	△3.9	△32.2	△29.8	△30.2	
ご参考(前期第2四半期実績) (平成25年3月期第2四半期)	10,175	1,679	1,736	1,105	61.16

2. 平成26年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想(A)	7,700	700	430	23.80
今回修正(B)	7,200	400	250	13.83
増減額(B-A)	△500	△300	△180	
増減率(%)	△6.5	△42.9	△41.9	
ご参考(前期第2四半期実績) (平成25年3月期第2四半期)	9,230	1,377	839	46.45

3. 平成26年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想(A)	19,500	2,950	3,050	1,950	107.92
今回修正(B)	16,500	1,300	1,500	1,000	55.34
増減額(B-A)	△3,000	△1,650	△1,550	△950	
増減率(%)	△15.4	△55.9	△50.8	△48.7	
ご参考(前期実績) (平成25年3月期)	19,123	2,663	2,785	936	51.84

4. 平成 26 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想 (A)	17,500	2,300	1,500	83.02
今回修正 (B)	14,700	950	600	33.20
増減額 (B - A)	△2,800	△1,350	△900	
増減率 (%)	△16.0	△58.7	△60.0	
ご参考 (前期実績) (平成 25 年 3 月期)	17,100	2,115	461	25.57

5. 修正理由

(1) 第 2 四半期連結業績予想

主力である巻線機事業に関連するマーケットでは、自動車業界を除き総じて中国での設備投資の手控えムード、その他の国でも設備投資への慎重姿勢が継続しました。業界別では、自動車業界については好調な生産や高機能化の進展によって堅調な設備投資が続き、情報通信業界は高機能化、多機能化部品用の設備需要は旺盛で、台湾、日系、欧州系向けの売上は堅調でしたが、チップコイル向けの設備投資が一段落し、売上は前年同期に比べ減少しました。AV・家電向けは、総じて低調に、PC・OA向けの設備投資需要は低迷を続け、これら業界のうち自動車を除く主力事業では、開発を終えた製品の量産化が第 3 四半期以降にずれ込む見込みとなりました。

また、上述のように主要な業界での高機能化、多機能化戦略が重なったことによって、当社ではコストアップにつながる開発要素の多い物件が増加し、利益率を押し下げる要因となりました。

(2) 第 2 四半期個別業績予想

売上高、利益とも連結の理由と同様となります。

(3) 通期連結業績予想

上述の理由に加え、前回の業績予想での受注を見込んでおりました引き合い案件の多くが第 3 四半期後半から第 4 四半期にずれ込んでの受注になると見込まれ、また、生産リードタイムを考慮するとそれらの多くの売上計上時期は来季になるものと判断し、修正するものであります。

利益面につきましては、下期においては生産体制の見直し及び原価低減施策等により上期に比べ売上総利益率の改善を見込んでおりますが、引き続き開発案件も多く、売上高が計画を下回ることによる固定費負担の影響などもあって利益額の大幅な減少が見込まれ、修正するものであります。

(4) 通期個別業績予想

売上高、利益とも連結の理由と同様となります。

6. その他

配当につきましては、当社業績は踊り場にあるとの判断、内部留保の額、安定配当の維持などに鑑み、本年 5 月 10 日の予想を据え置きといたします。

* 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績見通しは、当社が現時点で入手している情報及び合理的と判断した一定の前提に基づいたものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって、業績予想数値とは異なる可能性があります。

以 上